

令和4年度

総合型選抜

(小論文選択)

小論文課題

海洋建築工学科

注意事項

- ① 課題解答時間は60分です。
- ② 「小論文課題」は1冊(表紙を除いて見開き2ページ)です。
- ③ 「解答用」原稿用紙は2枚です。受験番号と氏名は2枚ともに記入してください。
- ④ 「下書き用」原稿用紙が1枚(4ページ)あります。メモ等、自由に使って下さい。
- ⑤ 解答には「解答用」を用い、横書きで記述してください。用紙右下にページ番号が予め振られているので、順番を間違えないで下さい。
- ⑥ この用紙「小論文課題」と「解答用」原稿用紙は試験終了後に回収します。
- ⑦ 自分や父母の氏名、高校名、受験生を特定できる言葉の使用は避けてください。

■小論文課題

次ページにある文章を読んで、

「海と海辺の景観」

をテーマにあなたの考えを下記の条件を満足させながら、600文字以内で小論文形式で論述しなさい。(タイトルの文字数を除く)

- 1) 自身の小論文に適切なタイトルをつける。「解答用」原稿用紙の1枚目1行目の四角枠内に20文字以内でそのタイトルを書くこと
- 2) 本文を「解答用」原稿用紙の2行目から600文字以内で書くこと(2枚目の最終行までで600文字です)
- 3) 海洋建築工学科で学びたい理由にふれながら、本テーマと関連付けること

「海洋建築と洋上風力発電開発」

洋上風力発電開発がいよいよ本格的になってきた。洋上風力発電は電力事業であるが建設業界が深く関わる大規模事業になる。海底に固定される形式の着床式洋上風力発電の本体タワーは海面から 100m ほどの高さとなるため地震の影響が十分に考慮されなければならない。建築物や土木構造物の構造設計を行う専門家が構造計算を行うことになる。多くの部品や資材などが必要となる洋上風力発電装置を数十基建設するためには拠点となる基地港湾が必要であり、実際に港湾の再整備が行われている。それは単に港湾施設を改修するだけに留まらず、新たな建屋なども建てられることにもなる。そして、周辺地域はこのような大きな事業に否が応でも巻き込まれるため、あらかじめ開発事業主体との合意形成が図られることになる。

洋上風力発電は大規模事業である。事業が展開される地域には関連企業が進出してくるし新たな雇用も生まれる。このような事業は地方都市にとっては地方創生や地域活性化の起爆剤として利用できる反面、環境破壊や特に景観が壊されるといった懸念があることも指摘されている。遠くの海上に風車が立ち並ぶことで日本海側では日没の景観が台無しになるという声もあるようだ。違う視点にたてば、そのような風車が見える景観を新たな観光資源にするという意見があっても不思議ではない。

海洋建築は建築物を計画・設計することはもちろん、海と関わる建物だけでなくその周辺地域の計画、デザインや利用方法を考える工学分野である。そして時には海上の利用計画をも考える。各地で大規模な洋上風力発電開発が提案されている。ハードの整備に必要な技術だけでなく、ステークホルダー[※]全体での合意形成を図るところまで対象とする海洋建築の役割は大きいといえる。まだ始まったばかりのこれらの開発に建築分野の技術者である我々がどのように貢献していくのか、貢献できるのかを考えることは重要である。

※ ステークホルダー：利害関係者。ある事業に直接・間接的な利害関係を有する者。